



## ルール変更のお知らせ

主審なしのセルフジャッジの試合方法について、JTAのルールが一部変更されたため、当協会の大会も変更されたルールで運用します。大会に参加される選手の皆様は、今回のルール変更と合わせ、裏面の「セルフジャッジ5原則」を遵守していただきますよう、お願いいたします。

### 1 コールの変更について

○「ネット」「スルー」「タッチ」「ノットアップ」「ファウルショット」に関しては、**両プレーヤー／チーム**がコールできる。

- ・**ネット**（サーブがネットに当たって、レシーバー側へ越える）
- ・**スルー**（ネットの間をすり抜けた）
- ・**タッチ**（ボールが身体に触れた、体がネットに触れた、ラケットに触れたなど）
- ・**ノットアップ**（2バウンド以上で返球）
- ・**ファウルショット**（故意の2度打ち、ネットを越えて返球）

○「アウト」「フォールト」「フットフォールト」「レット」「オーバールール」「ヒンダランス(妨害行為)」については、変更はなし。

\* フットフォールトは、ロービングアンパイアを呼んで、見てもらう。

### 2 ミスジャッジを直ちに訂正した場合

- ・インだったボールを誤って「アウト」とミスジャッジしたが、直ちに訂正した場合は、1回目は**ポイントレット**とし、2回目以降は失点となる。ただし、明らかなウイニングショットのときは、1回目から失点する。 \* 例えば、サービスエースのような、100%返せないようなショットは1回目からでも失点となる。
- ・ダブルスの1人が訂正すればチームが訂正したこととなる。

### 3 参考

・アウトの判断

\* ボールとラインの間に、はっきりと空間が見えた時は「アウト」のコールができますが、明確に空間が見えなかった時は「イン」です。

